

長月 愛南文芸

さわらび短歌会

旅行たびゆきし友ともの土産みやげの安曇野あづみのの
山葵わさびをおろす暑あつき厨くちやに
父ちちの顔憶かおぼえなき息子こが父ちちの齡とし
はるかに超こえて香かを焚たきおり
薄暗うすぐらい森もりに朝日あさひが差さし込めば
テリトリーを主張しゆちやうしウグイス鳴なくも
絵ハガキのゴツホのひまわり梅雨つゆふかき
昼ひるを点として壁かべに咲さきおり
生垣いけがきの白しろき花はなびらほろほろと
咲さき満みちて倉敷くらしき二年目にねんめの初夏しよか
露晴つゆはれ間山まやまの稜線りやうせんくつきりと
白しろき風車ふうしやのゆるりと廻まわる

前田 充
松本マス子
藤井 擴
岩村千代子
水野美代子
河上 明美

先まず熟うれしブルーベリーを小鳥こどりより
先まに十粒じゅうりゅう採りたる喜よろこび
雨上あめあがり靄もや立ち昇のぼる山裾やますそに
合あ歡わの花はな咲く里さとの静しずけさ
流暢りゅうちやうな日本語にほんごで吾われに挨拶あいさつする
インドネシアの介かい護ご士しさんは
週しゅう二回にかいの通所つうしよは吾われの学まなびの場ば
老おいてゆく術すべ教えられある
山桃やまももの赤あかくこぼるる通学路つうがくろ
友ともは手てを振り帰かえりて行きぬ
出でかけない吾われをさそいでドライブに
古木こぼくの繁しげる石垣いしがき廢屋はいおく

生田八寿子
澤近 正弘
前田 昭夫
前田 知子
門屋あけみ
扇野八代生

菊川俳句会

朝あさ焼やけに出船でふね真まつ赤かな炎ひとなりて
戦禍せんか知る父ちちは食たべない芋御飯いもごはん
きんきんの河内かわち晚柑ばんかんとこしなへ
見みえそうなマスクの裏うらの極暑ごくしよかな
新緑しんりよくに願ねがい叶かなうか遍路道へんろみち
青田風麦あおたかぜむぎわら帽子ぼうし反そり返かえる
青嵐あおあらし押おされ私わたしはあの海うみへ
手ぬぐいのほつれも白しろし日の盛さかり
クマゼミが柩ひつぎと決きめしチャリのカゴ

中川 一喜
安岡留美子
浅野勇一郎
迦 恋
河野 孝
河野 清美
和田 靖樹
福田 りさ
宇野 天弓